



～見上げれば夢がある～ ゆっくり歩きたい **本町通り 饅絵通り**



太字は100年経過の饅絵

- ① 安心院支所ロビー・七福神
- ② 観光協会・滝と馬
- ③ 古荘医院
- ④ 安心院高校・鷹と松
- ⑤ ギャラリー桐呼・歌舞伎役者、風神
- ⑥ 野家・水と菖蒲
- ⑦ 民家喫茶「百華草庵」志め乃亭
松と鷹、バラ、鶴、招き猫
- ⑧ 平松理容店・松と猪
- ⑨ 岸田パン・布袋と水
- ⑩ 豊田家・田んぼにこづみと豊後富士
- ⑪ 河野農機・大黒様とクボタエンジン
- ⑫ 重松家別邸・龍、三階の松、虎、富士山
- ⑬ 縣屋酒造・毘沙門天と弁財天と布袋
焼酎「安心院蔵」が味よし
- ⑭ 賀来家・唐獅子
- ⑮ よこい公園・一富士・二鷹・三茄子
ここで一休み
- ⑯ 佐藤家・大黒と恵比寿と鯛の三番壺
- ⑰ ファッションコアかわの
十二単衣、馬、恵比寿と弁財天など
江藤智子さんのギャラリー
- ⑱ 堀菓子舗・恵比寿とすっぽん
- ⑲ 上鶴家・松に鶴
ボランティアガイドしてます
- ⑳ やまさ旅館・滝に鯉とすっぽん
- ㉑ 佐藤印刷・虎
- ㉒ 佐藤家・虎
- ㉓ 安心院印刷・鼠、鯉、ぶどう
- ㉔ 渡辺茶舗・分福茶釜
- ㉕ いこいの広場・波兎、小学生の饅絵展
- ㉖ 山上理容店・散髪
- ㉗ 葛城家・群馬

鍍絵豆知識

●**鍍絵とは**、平らに塗られた漆喰の壁面（白壁）に鍍を使って浮き彫りにし、彩色して描いたレリーフです。

●**鍍絵はどうしてできたのでしょうか**。①佐官さんが家を完成させるまで長い間お世話になったお礼の印としてプレゼントしたものと、②施主さんが左官さんに招福避邪を願って依頼して作ってもらう場合があります。絵に心豊かなくらしを願ったものです。鍍絵は、戸袋や切り妻（妻壁）や土蔵の壁に多く描かれました。

●**鍍絵にかける願い**は、恵比寿は商売繁盛、大黒天・おかめは福の多いことを、虎は疫病除け、龍は火よけ、鷹は富を、鶴は長寿、波うさぎの波（水）は火事除け・うさぎは（子どもをたくさん産むので）子孫繁栄、朝顔は（蔓が伸びるので）繁栄、富士山や鷹は一富士二鷹三茄子という縁起物といった具合に絵によって違います。

●**本格的鍍絵の始まり**は、江戸時代の後期で、静岡県松崎町の佐官伊豆の長八（1815～1889）が最初だと言われています。伊豆の長八の鍍絵は、色づけを筆でした「上塗り法」ですから、欄間や床の間に多く描かれました。

安心院の鍍絵の歴史は、伊豆の長八に日出町の左官青柳鯉市が学んできたものを龍王出身の左官頭領長野鐵蔵を中心に弟子たち（14人）が鍍絵を広めていきました。

●**安心院鍍絵の技法**は「練り込み技法」と言って、白壁の漆喰を塗った後、絵を立体的に盛り上げて塗り、漆喰に色を混ぜた色漆喰を更に塗るわけです。ですから、雨、風にさらされても風化しないで100年以上経っても鮮やかな色を今でも残しているのです。むしろ、風化によって下の新しい色が出るのだといえます。

●**鍍絵の色**は、岩絵具と言って土、石、岩などを砕いたり、貝殻を焼いて彩色を出したり、黒色はかまどのスス・まつやロウを燃やしたススであったりという工夫がみられた自然のものです。当時としては6色しか出せませんでした。当時の顔料は大変高価、貴重で、ほとんどが輸入品でした。

●**現在**は、**化学顔料**ですから緑色も使われます。しかし、昔と比べて淡い感じが出なかったり数年して色あせたりすることもあるようです。

●**鍍絵の数**は、全国で約3000点、大分県で約1000点、安心院では約100カ所に点在しています。安心院は密集度からみると日本一です。

●**安心院に鍍絵が多く残ったのは**、4つが考えられます。

1. すぐれた左官職人が多くいたことです。左官の大棟梁の長野鐵蔵とその弟子14人が斲（たく）ってすぐれた鍍絵を作りました。
2. 漆喰の原料が手に入りやすいことです。長洲の海岸のカキガラや津久見の石灰石を運んできました。
3. 蚕を飼う家が多く比較的生活が裕福な家庭が斲って「蔵」を建てました。
4. 安心院には大きな変革を伴うような道路拡張工事、大火災、戦災がなかったことが保存状況をよくしました。